

只今、会長としてご承認いただきました札幌市立北九条小学校長の紺野高裕でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。令和4年度の役員を代表しまして、ご挨拶申し上げます。

本日はお忙しい中、全道各地より代議員・理事の皆様方にお集まりいただき、また、オンラインでも多数の方々にご参加いただき、心から感謝申し上げます。

北海道小学校長会は、昭和32年の発足から65年目を迎えた伝統ある組織であります。これまで、北海道の教育が幾多の困難に直面する中、「正論を以って正道を歩む」という理念の下、校長の職能向上と北海道教育の振興・発展を図ることを目的として、長きにわたり活動してまいりました。今後も、伝統を引き継ぎ、966名の会員の皆様と力を合わせながら、努力を積み重ね一層の進化を図ってまいりたいと考えております。

さて道小は、今年度、「北海道教育の質の向上をめざし、教育課題に正対して取り組む校長会」を目標に、一層の充実を図ってまいります。校長会の使命は、各学校の「教育の質の向上」にあります。そのためには、校長の明確なビジョンと鋭い時代感覚の下、創意ある教育活動と学校組織の活性化を図り、子どもの成長の姿で教育活動全体を評価・改善していく粘り強い取組が必要です。そのためにも、校長が「教育の質の向上」という観点を常にもち、教育改革や本道の教育課題に正対できる学校経営を実践していきたいと考えます。時代の変革期を迎えている今、これまで以上に、校長のリーダーシップとマネジメント力が求められています。道小は、各学校が創意ある教育活動を推進できるよう、学校現場の視点での実践交流や意見表明、実効性のある要望活動を行っていききたいと考えております。

昨年度も令和2年度から続く感染拡大の対応に奔走し、多くの制約と苦難の連続でした。コロナ禍と北海道の教育課題を鑑み、今年度の重点を5点に絞ってお話しいたします。

1点目は感染対策と学びの保障の両立です。

現在も、コロナウイルスは変異を重ね、子どもたちや若者を中心に感染状況が高止まり、終息が見えておりません。私たちはwithコロナの中で感染防止対策を十分に行いつつ、子どもたちの学びを止めることなく、教育活動を推進するため、柔軟な教育課程を編成したり、環境を整備したり、さらに学校行事の在り方を変更するなどの取組が、学校経営上の第一の課題となっております。道小は、20地区の校長会と連携を密に状況を把握し、必要な措置や対応が取られるよう、地域格差のない教育条件の整備を目指して取り組みたいと思います。

2点目は、「授業改善を核とする教育の質の向上」です。

ここ2年、各学校では学習指導要領で求める「社会に開かれた教育課程」の実現、「主体的・対話的で深い学び」に向けた校内研修等に十分な時間と労力を割けない状況の中、工夫しながら実践を重ねてきました。学習指導要領で示す授業改善の定着に向けて、一層力を入れていかねばなりません。また、中教審答申による「令和の日本型学校教育の構築」について、理解の深化を図り、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実について、趣旨を十分に理解し、その具現化が求められています。そのためには、教員の「授業力」や「指導力」を高めていく資質向上が不可欠であり、人材育成に向けた取組の充実が必要です。さらに、一人一台端末の導入は、家庭と学校を結ぶオンライン授業や、各教科等の授業改善に大きな可能性を秘めていますが、参集しての授業参観や研修が難しい中、有効活用については道半ばです。

端末の活用については、研修やサポート体制を含め、自治体格差、学校間格差も指摘されており、それらの解消にも取り組んでいかねばなりません。

3点目は「学校における働き方改革」の一層の推進です。

各学校では教育課程全般を見直したり、事務作業の効率化のためのICT機器を活用したり、専科教員の導入や外部人材を活用したりなど創意工夫しながら取り組んでいるところです。北海道では学校における働き方改革「北海道アクション・プラン」(第二期)により、令和3年から5年までの目標が示されています。各学校において校長のリーダーシップの下、取組を進めており在校時間の短縮など、一定の成果も見られますが、まだ道半ばです。

一方で、若手教員の増加、期限付き教諭や代替教員の不足など人材育成や人材確保が重くのしかかっています。また、教員採用試験の倍率低下や管理職のなり手不足などの状況を見ると、教職員の負担軽減や業務改善、待遇の見直しなど、教育政策への要請も含め、働き方改革に向けた一層の取組が必要です。

校長会は、これらの課題にも正対して取り組み、負担軽減を進めることが急務です。各地区校長会と連携し、地域間格差や人的配置の問題が解消されるようにエビデンスに基づいた提案や要望を行ってまいります。

4点目は、with コロナにおける校長会の各研修会、研究大会の充実です。今年度も感染状況を見極め、オンラインを活用しながら活動を進めてまいります。会同の機会は貴重であり、多くの会員から会同を望む声があります。できる限りこれを目指しつつ、状況に応じて、これまで2年間の蓄積を生かしてまいります。9月9日-10日に行われる第65回道小教育研究旭川大会についても、実行委員会と相談してできるだけ早く開催方法を決めてまいります。研究大会は、道小の中核となる活動であり、校長会の目的である「校長の職能向上」と「本道教育の質の向上」を目指して、研鑽を積んでいく貴重な機会です。特に、分科会は、以前から参画型の充実を目指して、工夫を重ねてきましたが、この2年は話合いがもてておりません。今回は、何とかして分科会を実施したいと考えております。

現在、旭川市小学校長会の皆様は、会同とハイブリッド、両にらみで準備を進めてくださっています。どのような開催方法となっても、道小の総力を結集して、実り多い大会になるように、支援していきたいと思っております。ご協

力をよろしくお願いいたします。

最後に、道小の組織及び運営についてです。

道小では、令和2年度の企画研修委員会の答申を受け、今年度から事務局幹事の札幌市選出者を1名減じ、地区選出者を1名増員しています。また、今年度より歳出削減の取組として、理事研修会の2回と全道会長研修会は、Zoomによるweb会議とすることになりました。加えて、分科会運営者研修会についても、第1回の全体会はハイブリッド開催、今後の分科会ごとの会議は、Zoomによるweb会議とすることにしました。

平成29年度からの会費値上げにより、財政の立て直しが図られましたが、今後も会員数の減少が見込まれ、引き続き歳出削減に向けて取り組んでまいります。会員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

結びになりますが、各地区校長会が道小という組織を通して、今後も大同団結していくことが大切であり、それが全国連合小学校長会の活動の充実にもつながっていくと確信しております。

これからも、この道小を活性化させるとともに、北海道教育委員会、北海道中学校長会、北海道PTA連合会、民間教育団体等の教育関係諸団体とも連携を図りながら、「未来を見据え、チーム北海道として進む道小」として北海道教育の質の向上に努め、令和4年度の第一歩を踏み出していきたいと考えております。どうぞ、よろしくお願いいたします。